

A-110 食事行動に関する調査研究(第1報) — 食生活の実態調査報告 —
香川県明善短大 ○ 川梁節江 田中照子

目的 社会生活環境の発展にともなう、私たちの食生活も変化しつつあると思われる。そこで、食物に対する嗜好の問題、朝食形態および欠食率、栄養剤の使用状況などの食事行動に関する実態を知るために全国8地区において調査研究を行なった。

方法 札幌、仙台、金沢、東京、大阪、中国(広島、山口)、香川、九州(熊本、福岡)の8地区の男女約50名、また香川県においては成人層約80名を対象に、中学生・高校生については、香川県と大阪において、それぞれ約550名について調査しそれらの結果を比較検討した。今回は、食生活の実態を中心に報告する。

結果 資料は、性別、年齢別、世帯主の職業別などに区分して統計処理し、分割表の検定を行なったことにより、次のような情報が得られた。①朝食形態は、地方により非常に特色があり、東京では、米食、パン食、時々パン食という3つの形態が同じ位の割合であるが、札幌、仙台、金沢、九州では、60%以上の家庭が米食を主としている結果がみられた。②朝食欠食者のいる世帯は約40%もあり、しかも15才から20才のいわゆる飛育期にある男女に多く、全然食べないのは男子よりも女子が多く目立っている。③栄養剤の使用状況は年齢とともに上昇し、女子よりも男子がより多く使用している。④男女によって好まれる食物が異なるなどの傾向が認められた。